

会 議 録	
会 議 名	令和4年度 第4回真庭市子ども・子育て会議
日 時	令和5年1月19日(木) 19:00~20:30
場 所	真庭市役所 本庁舎 2階大会議室
出 席 者	<p><出席委員> 12名 池田委員、内田委員、江口委員、川崎委員、小谷委員、佐藤委員、庄司委員、杉本委員、額田委員、二若委員、前田委員、松尾委員</p> <p><欠席委員> 2名 高田委員、安田委員</p> <p><事務局> 2名 健康福祉部子育て支援課 行田課長 健康福祉部子育て支援課 硯参事</p>
傍 聴 者 数	傍聴者 7人
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議 題 (1) 久世地域における園整備のあり方について</p> <p>4 閉 会</p>

1 開 会

(事務局 行田課長)

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第4回真庭市子ども・子育て会議を開催いたします。

本日は、遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。

本日の会議の終了時刻は、午後8時30分を目安としておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして佐藤会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長挨拶

(佐藤会長)

～会長挨拶～

(事務局 行田課長)

ありがとうございました。

本日は、委員14名中12名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので真庭市子ども・子育て会議条例の第5条第2項の規定により会議は成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、会議規則により、以降の進行は佐藤会長をお願いいたします。

3 議 題

(佐藤会長)

前回、この議題についてご議論いただきましたが、天候の影響もありまして、いつもより出席者が少なかったということもありまして、今回も、再度、この議題について深めてまいりたいと思います。事務局の方で、前回、委員の皆様からいただいたご意見を整理しているようです。まずは、事務局から説明をいただき、それに基づき、前回同様に委員同士で議論を深めてまいりたいと思います。

それでは、事務局から資料について説明をお願いします。

(事務局 硯参事)

～資料1により説明～

説明は以上でございます。

(佐藤会長)

草加部幼稚園の今後ということで、資料では、今年度の園児数は7名です

が、来年度どれくらいの園児数になりそうか、増えそうなのか減りそうなのか、それを教えていただければと思います。

(事務局)

現在、皆さんからの園の申し込みについて、今月下旬に向け調整しており、入園場所を確定する作業が大詰めとなっております。ですので、この場で何名ということは控えさせていただきますが、希望されている方は減っているということだけお伝えさせていただきます。

(佐藤会長)

それをお伺いしたのは、一つの園で、少数であれば、どうでしょうか。手厚くて良いと思われるかもしれませんが、やはりある程度一定子どもが集団で育つという意味においては、数があるんじゃないかと専門的な観点からは考えます。それが何人がいいのか、いろんな議論はありますが、少なければいいというものでもないと思っています。実際に現場にいらっしゃる川崎委員、その辺はいかがですか。

(川崎委員)

言われたように、集団で育つという部分では、少人数ということではなかなか賄えないところもあると思いますが、メリットもあると思います。少ない人数でも、育ちがすごく伸びてきたり、保育の仕方によってかなり違いが出てくると思います。なので、どちらが良い悪いというのは、言いにくいことです。

(佐藤会長)

おっしゃるとおりですが、例えば、今後一定数園児が確保できる見通しがあればいいかと思いますが、これから園児数がさらに少なくなった時に、果たしてそれでいいのかあと個人的には思います。例えば、他の子どもとも関わるような機会が作れるのであれば、そういうところも考慮してはと思います。多いのもダメですが、個人的には、少ないのもどうなのかと思います。考える過程において、ひとつの検討材料にいただければと個人的には思います。

(川崎委員)

昨年度の子ども子育て会議で、各地区の保育園等の代表の保護者に対し、どのように思われるか話し合われたと思います。その時に、保護者の代表の方々からは、このまま自分たちの園を残してほしいと、どの園からも出たように思います。草加部幼稚園の園児がだんだんに減っていますが、草加部のこども園

化は考えられていないでしょうか。

(事務局)

草加部をこども園化ということは、考えていません。

(川崎委員)

草加部のこども園化を進めていくと、幼稚園部を希望される方が多いということで、人数も、近くにお勤めの方とかで増えていくかもしれないですし、建物もまだの古くないと思います。地域でも幼稚園を残して欲しいと何年か前にもかなりの運動もされていまして、その辺りも少し考えてもらえたらという思いもあります。

(佐藤会長)

川崎委員としては草加部幼稚園をこども園化して活用していくことも検討材料としてもらいたいということでしょうか。

(川崎委員)

全体的にこれから長い目で見てみると、それはどうしても難しいということになるかもしれないですが、今の段階での案、想定ということです。

(佐藤会長)

最終的には、市でいろいろ精査して最終案を出されると思いますので、逆に今ここに記載されていない意見を出していただくとすごく有効だと思います。

(前田委員)

これまでの老朽化の議論に加え、園専用給食センターだとか、たくさんの観点が出てきました。ただ、改修でも新築でも、肝心の予算の確保というのは実際どこまで可能なのか。ここでいろいろ案を出しても、予算が無ければ何もできないので、夢のようなことをどんどん伝えていったいいのか、何か目安があればと思います。もうちょっと絞って提案を聞かせてもらえると話や質問ができるかなと思うんですが。

(事務局)

事業を進める上で財政的なことは、大切なことの一つです。また、久世地域の議論の後には、市全体のことと考えていかなければなりません。いくらでも予算がある訳ではないですが、だからと言って何も手が出せないという訳に

はいきませんから、子供たちにとってどういった環境を実現していくのがいいかという、本当に重要な課題だと思っています。目安があれば考え方を深めやすいということもあるかもしれませんが、いろんな意見をいただく中で、財政面も考慮しながら、少しでも前向きに取り入れられるものは検討していきたいという思いですので、あまり枠に捕らわれずに忌憚のないご意見を頂けたらありがたいと思います。

(前田委員)

もう一点、昨年からのこの会議ですが、なかなか生の声も聞きにくいところがあります。昨年は、どちらかという民間のこども園をどうしますか、それに久世の保育どうしますか、という話が主だった気がします。今回は、こうした議題で、今から時間的に難しいかもしれませんが、保護者の方々に意見を聞きたいというのが個人的にはあります。長くても園に関わるのは6年間です。この会議だけでも時間が経過しており、保護者から、まあどっちでも好きなように、今すぐ変わらないんだったら説明会に行ってもなあと言われたことが実際にありました。それでも、まだこれから先に2年3年行く可能性がある保護者からの意見を取り入れるのも一つかなと思います。ただ、それをして時間が更にプラスになってしまうかもしれないですが、そういうことも大事なかなと思いました。

(佐藤会長)

今後、真庭市である一定の方向性を示されると思いますが、それに関しては、保護者や保育士の皆さんなどにもある程度説明されて意見を聴く機会を持つ予定でしょうか。

(事務局)

どこまで丁寧にやればいいのかというのは答えがないと思いますが、我々としてもこういった会議であるとか、保護者の皆さんからのお話を聞かせていただくことは大切と思っています。この議題に特化していませんが、先日もアンケートを実施し、関連する内容を確認しています。そういった中で、以前からご指摘のあるとおり、やはりこの議論に時間かかっているということもあります。前回も申し上げましたが、できればすぐにでも実行に移していく、そうした議論にしていきたいということで、市長も議会で、年度内に方針を打ち出していきたいという答弁をしています。また、保育士や久世地域の保護者の皆さんに対しての説明の機会は当然必要と思います。そういった中で、いろんなご意見を頂くことがあると思いますので、できるだけ前向きに皆さんのご意

見をお聞きしたいと思っています。全ての方に100点をいただくのは難しいと思いますが、市としての方針を示していき、できるだけ多くの皆さんにご理解いただけるようにしていきたいと思っています。

(池田委員)

今回、案ということですが、統廃合も出てきました。統廃合という言葉だけを考えて、どうしてもマイナスのイメージがあるのも分かりますが、今、小学校、中学校も真庭市内で統廃合が進んでいるところもあります。ただ、今回この久世地域で、老朽化した久世保育園、久世第二保育園をそれぞれ新設するとなると、これはもうコストの面からと、この実情を考えた上では、個人的には一番悪手ではないかなと思います。それよりも老朽化した二つの園を一緒にして、新しい園にすれば、当然先生もそこに集約される訳ですから、そこでは決して目の行き届かないような保育にはならないんじゃないかという期待感を私は持ちました。もう一点、久世地域が逆に羨ましいと思うのが、愛慈園を含めて園が6つあります。どこに住んでいてもそんなに時間か掛からず行けます。私は湯原地区ですが、園も小中学校もはっきり言って統廃合から取り残された地区です。そういう地域で我が子を園小中と見ていますが、人数が少ないから良いところもあれば、人数が多いからこそできる経験、学びというものもあるんじゃないかなと思いつつ、今回の話を聞かせてもらっています。

(松尾委員)

言われたとおりで、今、私は北房で、4つの小学校が1つになった学校です。1つになる前は、それぞれ小さな学校で素晴らしいなと思うところもあったし、学校が4つ集まったから大人数になって、できることも沢山あるのでどちらが良いかはなかなか言いづらいところです。ただ、例えば、想定1と想定2だけを見ても、5園から3園になるんです。今、先生方の数が非常に足りない状況で、園長だけを考えても必要で無くなります。例えば、学校では、入学して始業式が始まっても担任がいけないというのが、全国にたくさんあると聞いています。ですから、真庭市でも、ある程度の事は先々のことを考えていかないといけないと思います。たくさん先生が一箇所に集まると、それだけで随分と違って来る部分もあるし、逆に少ない方がいいという部分もあります。それと、園児が少なくなっても、先生はある程度いないと賄えないという部分もあったりするので、その辺りはよく計算が必要だと思います。よく考えても想定外の状況も起こるかもしれないので、非常に難しいと思いますが、先々のことをしっかり計算しながら考えていかないといけないと感じます。

(庄司委員)

たくさんの資料で、どれを選べと言われたら、とつても難しいことだと思います。私は落合地区ですが、やはり久世地区の今子育て中のお母さん達に、もうちょっと案を絞ったものを見てもらうのがいいと思います。今子育て中のお母さんは、園が変わる頃には我が子は小学校だからというのは、つどいの広場の中でも話題になったりします。兄弟がいる家庭は、少し熱心に聴こうかという感じがありますが、やはりいろんな状況も違うと思うので、今実際に預けている保護者の意見をしっかり聞いていただけたらと思います。あと、小規模保育事業所というのがありますが、以前の資料で保育士でなくてもいいというのが載ってたような気がするんですが違いますか。

(事務局)

小規模保育事業所は、保育の資格を持った方は必要で、受入れの年齢が0から2歳に限定されていて、人数規模が6人から19人という規格のミニ保育園のようなイメージを持っていただけたらと思います。

(内田委員)

子供のため、保護者のために一番いい形でまとめることが一番の目的なのでいいと思います。ただ、統廃合するのが合理的だと思いますが、その地域の方の気持ちを考えた時に、やはりその地域から園だったり学校が無くなるということは本当にその地域が寂しくなると思っています。気持ちだけで、言っても仕方がないことですが、それはすごく感じます。その上で、一番本当に子ども達にとって、保護者にとっての理想的な形で決まることを願っています。

(二若委員)

蒜山地区なので、久世地域の方の気持ちがなかなか汲み取れないところがあって、あまり意見が言える感じがしないんですが、ただ、園の老朽化とかいろいろあって、民間の園も参入されるようになって、やはり統廃合というものも少しきちんと考えられて、老朽化を一刻も早く解消してあげてほしいなと思います。議論するばかりでは話が進まないのので、やはり早く予算とかそういう話をしていただいて、はっきりした提案が欲しいなと思いました。

(額田委員)

整理いただいた5つの観点ということを基本に、こうして考えるのがいいと思います。老朽化は喫緊のことでもありますし、0～2歳児の受け入れ、園児向けの給食というのは皆さんの切実な希望だと思います。また、定員の問題、

持続可能な体制というのは、今後の事を考えた時に、もうどうにもならないという部分だと思うので、この5つのポイントをどうバランスをとるかだと思います。あとは、地域の人を気持ちよく取り込んで、この会議はまさにそうだと思いますが、その上でそれを汲みあげて政策にどう活かして行くかだと思います。地域の方の気持ちを大切にしながら、予算のこともありますので、今後の人口の推移だとか、そういうことも踏まえて説明の付くようにすることが必要だと思います。

(小谷委員)

個人的には、園がどのくらい自分に合ったことをしてくれるかというのが大事だと思っています。先ほどもあったように、あと3年すれば私には関係ない話になってしまうので、本音を言うと、老朽化なんかは後回しの話とさせていただきます。私からすれば、給食提供が一番優先で、0～2歳までの受け皿の確保がまた同じように1番か2番を争うくらい大事なことです。正直、この資料では、結局何が言いたいのか、何を求められてるのか分かりません。なので、今の久世地域の保護者に意見を聞くのも大事だと思うんですが、もう少し絞ってもらった方がわかりやすいと思います。

(佐藤会長)

次は案が絞られると思いますが、これまで何度も出てきたように、今から始めても自分の子どもに関係ないとか、時間ばかり掛けても駄目なので、なるべくスピーディーにということ。一番いいのは、今の施設を全部きれいに順次建て直していけばいいんですが、そんな予算は当然ない訳です。久世地域で頑張ってモデルを今回作って、それを市全体に広げていく必要があるのに、真庭市全体となるとなかなか手が回らないということも当然起こり得る訳です。その辺のバランスをどう取っていくのか、その答えが次の会議で出てくるとしています。前回12の案での議論し5つの観点が出てきて、今回それを基に5つに整理されて今日の意見を聞き、またそれを一つか二つに絞って決定されていくんだと認識しています。例えば、想定2では、新設こども園の定員が138人で、その中の0～2歳が60人というのは、多分保育のプロからすればあり得ないですね。定員の半分を3歳未満児が占めることは、学年進行としても正直なところなかなか厳しいと思いますので、そういった意味で、いろんな案に良いところ悪いところがあります。なので、それぞれの立場から様々な意見をいただいて、意見が増えればいろんな可能性や問題点が見えてきますので、市の参考にしてもらえと思っています。

(杉本副会長)

個人的には、久世以外に住んでいますので、先程二若委員などが言われたような同じ気持ちでいます。また、松尾委員が言われたように、やはり将来を見込んで検討することが大事で、子どもが生まれていない状況は非常に厳しいと思っています。以前は、乳児検診などで300~400人はいましたが、今は出生が200人を切るくらいになっていて心配しています。一方で、国もまた市長も子育て支援に力を入れていきたいとおっしゃっています。こうした動きによって、出生も増えればという期待感を持ちながら、会議に参加しています。例えば、美甘地域では、園も無くなるのではないかと心配しています。中学校が統合となり、非常に寂しくなって、地域住民が一致団結して、活性化に力を入れているところですが、ここでもし園が統合になると内田委員も言われたように、寂しいなあという気持ちが非常にありますが、これは仕方がないこととも思います。でも、そういう状況に直面して、地域住民がすごく力を出して、地域を活性化していかなければいけないと思っています。これから子育て支援に力を入れていただけるということは、個人的には非常に力強く思っていますので、皆さんの意見をお聞きしながら、私も頑張っていきたいですし、出生が増える環境が作られて、園が理想の形になることを希望しています。

(前田委員)

自分たちが子ども時代は、小さな地域に一つの園があったイメージです。例えば、自分は幼稚園の頃から2キロほど歩いて小学生の兄に連れて行ってもらっていました。こういう環境は久世地域の特徴かもしれません。ただ、今はほとんど保護者が車や自転車などで連れて行かれ、先ほど発言があったように、今の保護者は、自分たちには関係ない、子育てのことで今そこまで考える余裕はないという人が多いと思いますが、それでもやはり地域に根ざした園が必要だと思います。久世地域だけを見ると本来であれば檜邑や余野がありますが、今は園がないので、大きく分けて久世地内と目木、草加部です。それで考えると、例えば、草加部幼稚園は小学校に併設で築17年で、人数少ないのは重々理解してますが、先程ほどからの発言のように、地域に園があるとないのでは、地域の繁栄などにも直接関わってくるのではないかと思います。少人数でも出来る限り残していただきたいのが草加部です。米来こども園も子どもは少なく、園庭がかなり狭い。横に米来小学校があり、まだ助かっている気はしますが、米来もやはり今新しい住宅も建ってますし、今後も発展する可能性があるのも、こちらも残して欲しい。で、久世地内は、久世保育園、第二保育園、久世こども園とあり、愛児園も頑張っていてとても立派で助かっています。個人的には、久世こども園に久世保育園の機能集約というのが、可能性と

しては大きいと思ってましたが、久世こども園は、今の人数で一番良い状態を保っているように感じ、実際に定員の180名を受け入れるには、園庭や教室がどうなるかなという気持ちが強いです。また、老朽化した第二保育園も、やはり早い建て替えが必要という状況です。となれば、久世保育園と第二保育園を合わせる必要があると思いました。久世保育園のすぐ横には民間こども園ができますし、第二保育園だとやはり土地的に狭いというがあるので、そうなると、どこか違う場所で、もう少し中心部の所に2園を一緒にして、調理室も規模を大きくできたらいいと思いました。私の自宅近くにあった大きな縫製工場が今無くなっていて、これまで見たことがなかった景色が今見えています。改めて、すごく大きないい敷地があります。予算を考えずに、土地の取得も考えずに言えば、そういうところに子育てに特化した場所ができればいいなということも思いました。実現する頃には、自分の子も園にはいませんが、やはりこれから久世地域、特に久世地内はまだ人が増えてくる可能性が大きいと思います。そういう先も見て計画を考えてもらえたらと思いますし、総木造でできたらいいかなと思います。

(川崎委員)

昨年度、たくさんのアンケートを園独自また園の職員独自で取りました。市が行ったアンケートもあったんですが、その内容で廃園についてがありました。今は、その時と違い、北町公園に久世保育園が新設されるのではなく、民間園が新設されるということになってしまったので、そうなると、保護者の思いにもかなりの変化が生まれてきているのではないかなと思います。ですから、保護者の昨年とはまた違った思いの部分をアンケートして、意見をしっかり聞くのもいいと思いました。職員としてはいろんな想いもあるんですが、私も久世から離れてみると、また違った目で久世の園整備を考えるようになり、今まで考えが少し固定し過ぎていたという思いがあります。保護者の思いも受け止め、子ども達がこれから、安定して過ごしやすい園になることを一番に切に望んでいます。

(佐藤会長)

統廃合が決まった訳ではないですし、ここの意見がそのまま採択されるかどうかもありますが、一つの意見として今日はありがとうございました。予想以上にいろんなご意見が出たように思います。そろそろ時間ですが、他に大丈夫でしょうか。この子ども子育て会議は、ここのところ久世地域の園整備を中心に進めておりますが、それだけではなく、真庭市全体の子ども子育てのいろんなことを議論いただく場でもありますので、今後、真庭市全体のビジョンに

ついても、なるべく早急に議論できればと思っています。この後、市で久世地域の園整備の方向性を決定し、次回の会議では、その状況を報告頂けると思われます。本日議事は以上でございます。皆様のお陰をもちまして活発に意見が出たと思います。委員の皆様には次回も引き続き慎重にまたスピーディーにご意見等をいただければ幸いです。引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、事務局にお返しします。

4 閉 会

(事務局 行田課長)

佐藤会長、委員の皆様たくさんのご意見をありがとうございました。先程からのお話のとおり、今話していることが実現できるのに一定の時間が掛かるのは事実です。用地の取得、園の設計、建設工事と手順を踏んでいけば、過去の例をみても3年くらいは必要になってくると思いますが、どういった形になるにしても、今後打ち出す方向に向かって、できるだけ迅速に進めていきたいと思っています。会議は、年度内にもう1回予定していますが、皆さんで議論いただくのはここまでとして、一旦事務局でお預かりし、今日のご意見も踏まえて整理し直して、中でも議論を深め、市としての方向性をまとめていきたいと思っています。ですので、次回は、議論というより方向性、考え方を報告するような場にさせていただければと考えていますので、次回以降も引き続きよろしくお願いいたします。

閉会にあたりまして杉本副会長にご挨拶をいただきたいと思っています。

(杉本副会長)

～副会長挨拶～

(事務局 行田課長)

ありがとうございました。委員の皆様、長時間にわたってありがとうございました。どうかお気を付けてお帰りください。